

議事録（要旨）

会議名	姫路市新美化センター建設候補地選定に関する津田地区住民説明会
開催日時	令和6年1月27日（土） 19時00分～20時30分
開催場所	姫路市環境ふれあいセンター 大ホール
参加者	（参加者）津田地区住民27名 （事務局）農林水産環境局長、環境事業推進室長、環境事業推進室主幹2名、環境事業推進室6名
議題	姫路市新美化センター建設候補地について
資料	姫路市新美化センター建設候補地について

内 容

1 開会あいさつ（農林水産環境局長）

姫路市では令和14年度の稼働開始を目標とする新たな美化センターの整備に向けて取り組んでいる。その建設場所については、環境審議会で審議・答申いただいた選定方法に基づき、副市長を委員長とする庁内組織で約1年間かけて慎重に審議を重ね、今在家の旧南部美化センターの場所を最終的な候補地として選定した。

市内全域を対象に土地を抽出し、様々な角度から設定した項目で選定を行った結果、新美化センターを建設するのに最適であると評価したものである。

新美化センターの整備にあたっては、環境に配慮し安心・安全で安定的なごみ処理が可能な施設とすることはもちろん、新美化センターがまちづくりの核となり、地域の活性化と発展に繋がるような整備を目指していくので、地域の皆さまのご理解をお願いしたい。

2 議題

・ 姫路市新美化センター建設候補地について

事務局より「資料 姫路市新美化センター建設候補地について」説明

主な意見等

- ・ 平成18年の市町村合併以前は、旧4町のごみはどこで処理していたのか。

⇒夢前町と香寺町はくれさかクリーンセンター、安富町は宍粟環境美化センター、家島町は家島美化センターで処理していた。現在は旧4町を含めた市内全域のごみを、市川美化センターとエコパークあぼしの2施設で処理を行っている。

- ・ 現在停止しているくれさかクリーンセンターを再整備することは検討しなかったのか。

⇒新美化センターは268t規模の施設を想定しているため、2～3ヘクタールの土地が必要となる。くれさかクリーンセンターは約1ヘクタールしかなく、候補地の対象とはならなかった。

- ・新美化センターが建設されると、ハコモノ以外に津田地区にとってどのようなメリットがあるのか。播磨臨海地域道路もできると、この地区は本当に環境が悪くなると懸念している。
⇒メリットについては、施設自体に様々な付加価値を持たせていくことをこれから検討していく。美化センターを受け入れていただく地域の発展を、市をあげて地域の皆さまと共に考えていきたい。
地域間の環境面での不均衡が考えられるが、地域の環境保全にはしっかりと取り組んでいく。
- ・施設の処理方式は、焼却とガス化溶融式では、特に環境への影響の観点からどのような違いがあるのか。
⇒大きな違いとして、処理後の残渣物に違いがある。焼却の場合、燃えがらと飛灰となり、埋め立て処分する。溶融の場合、飛灰、スラグ及びメタルとなり、スラグとメタルは再利用される。また、溶融はより高温で燃やし溶かすので、CO2の排出量としては多くなる。こういった事などもふまえて、具体的な処理方法については、来年度以降の基本計画策定の中で検討していく。
- ・建設地は旧南部美化センターの土地で決定なのか。
⇒今回は選定経緯と選定結果の報告であり、今後説明会や地域との協議を重ねたうえで決定したい。
- ・建設地の最終決定は誰が行うのか。
⇒最終的には行政が決定する。
- ・「経済性」の項目で得点が突出しているため総合点では1位となっているが、「周辺環境への配慮」や「合意形成」の項目では他の候補地の方が高得点である。住民の立場からは、これらの項目の方がより重要と考えるがどうか。
⇒結果的に経済性の得点が特に高くなっているが、それだけを着目しているのではなく、全体的なバランスを見て最も適正がある場所を選定している。今在家は、特に他より評価の低い項目がなく立地適正がある。
- ・今在家で反対が多数あれば、第2位の候補地に方向転換することは考えていないのか。
⇒現時点では考えていない。市域の中で最も適正な土地として選定した以上、姫路市としては第1位となった候補地と話し合いを進めていきたい。
- ・三次選定の他の3つの候補地の中で、今在家交差点より混んでいる交差点はあるのか。
⇒同じような混雑度の交差点が1カ所ある。
- ・三次選定の「経済性」の項目について、30点満点中29.9点となっている。今在家は市内の南の端に位置するので収集効率が良いとは考えづらいが、なぜ得点が高いのか。
⇒経済性のうち「収集運搬に係る総走行距離」の項目については、走行距離をシミュレ

ーションして評価し相対評価を行った。他の候補地との位置関係により点数が左右されるので、南の端でも市の人口重心である「土山」にも近く、点数が高くなった。

- ・姫路市立の高校3校が合併することにより、市有地が2カ所空く。例えば、琴丘高校は山裾にあり人口重心にも近いが、候補地の対象にはならないのか。

⇒一次～三次評価のうち一次評価では、急傾斜地や工事に適さない土地等に加え、法的制約条件を設定し、条件に該当する候補地は除外しているため、十分加味した上でこの結果となっている。

- ・近隣の企業への説明は済んでいるのか。

⇒住民の方を優先とし、先に説明会を実施している。企業とはまだ話はしていない。

- ・評価項目の「合意形成」とは、地域住民の代表者との会話の中で合意形成がとれている場合は、高い得点になるという意味か。

⇒「合意形成」の評価については、他都市との距離や情報提供の有無、市有地であるかや土地所有者の数など、あくまで机上で分かる範囲の合意形成に影響する項目を設定し評価を行った。具体的に地域に説明を行ったうえでの評価ではない。

- ・新美化センターは、エコパークあぼしと同様の施設となるのか。

⇒イメージ的には同様の施設と考えていただいても良いが、処理方式などについては、来年度以降の基本計画策定の中で検討していく。

- ・エコパークあぼしより現在の設備の方が進化していると思うが、最新鋭の設備は導入しないのか。最新の設備で環境性能が十分に満たされていて安全な施設であれば、そこまで反対する事業ではない。

⇒環境性能の高い最新鋭の設備の導入を検討し、環境への負荷を低減したい。

- ・エコパークあぼしの周辺では悪臭がするが、新美化センターでは改善できるのか。

⇒周辺にはいろいろな施設があり、エコパークあぼしからの臭気ではないと考えるが、具体的には検証はしていない。臭気についての対策は様々な方法があるので、具体的な施設規模や排ガスの基準決定後、しっかりと対応していく。

- ・令和14年度稼働予定となっているが、処理方式の決定期限はいつか。

⇒令和6年度から令和7年度にかけて、専門家等を委員とする技術者会議で慎重に審議していきたい。

閉会

事務局：令和6年2月23日（金）に第2回住民説明会を開催予定。